
愚者とオルゴール

かーばんくる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愚者とオルゴール

【Nコード】

N9682Z

【作者名】

かーばんくる

【あらすじ】

懐かしく美しい、それでいてどこか哀しいオルゴールの音色を聞いた事からすべてが始まった。

オルゴールの音色に引かれていった先にいた少女

徐々に明かされていく少女の秘密、そして自分自身にかかわる秘密

衝動的に書き始めた作品ですがどうか読んでやってください。

序章（前書き）

はじめまして（>0<）

唐突に書き始めた作品ですがよろしくお願いします（――）

序章

オルゴールの音が聴こえる。とても優しく、懐かしくそれでいてどこか哀しい音色だ。

和哉は音の元を探してフラフラと歩き出していた。

寂れた公園、オルゴールの音色はそこからしていた。

まるで人々から忘れ去られたように錆付いた遊具に夕暮れの茜色の斜陽が差し込む。

公

園の中央にその少女は立っていた、全身を白のワンピースでつつんだその少女は胸に小さな木箱を抱えている。

このオルゴールの音、あの箱からしている。

「そのオルゴール、綺麗な音だね」

和哉は思わずその少女に声を掛けていた、少女はそうでもしないと消えてしまいそうなほど、儚げでさびしそうに見えたからだ。

和哉の言葉にまったく反応を示さない少女。

「ねえ、君……」

この子、聴こえていないのかな。

そんな反応に不安を感じ、和哉は少女へと歩み寄る。

少女の目の前まで歩いた時、突如、顔を伏せていた少女が顔を上げた。

「あ、やっと顔を上げてくれた」

喜ぶ和哉をよそに少女は小さく、一言だけ和也に告げる。

「あなたの……あなたの家族が、今日死ぬ」

何を……言っ

「何を……」

そこまで言いかけた時、一陣の風が凪いだ。

序章（後書き）

いかがでしたか？

感想などをいただけるととてもありがたいです。

第一章（前書き）

すみません、今回かなり短いです。

第一章

目を覚ませば視界にはいるのは見慣れた自室の天井。

不思議な夢だ……。

ゆっくりと体を起こし、大きく伸びをする。

今日から夏休みに入るというのになんて夢だ。

今日単身赴任していた父が家に帰って来る、更に県外の中高一貫校に通い、寮生活をしている妹も夏休みだということでの家に帰ってくるのだ。

…… 本当にこんな日になんて夢見てんだよ

『あなたの家族が今日、死ぬ』

思わず夢の中で聞いた言葉を思い出し和哉は思わず身震いする。

まったく、冗談じゃない。どうせ、ただの夢だ。

そう、どうせただの夢だ……。

学校へ登校しても和哉の心の中で燦るどうしようもない不安は消えることは無かった。

それどころか不安はどんどん不安は膨れていくばかりだった。

夢だと分かっている少女の言葉を忘れることが出来ない

『あなたの家族が今日、死ぬ』

こういった少女の表情がふと目に浮かぶ、無表情の中にわずかばかりの悲しみが藻いて取れたあの顔がどうしても頭から離れない。

学校が终れば和哉は自宅へ全速力で駆けた。

第三章（前書き）

今回はグロテスクな描写があります。

苦手な人は注意してください

第三章

目に見えるのは轟々と燃盛る炎、そしてそれを消そうと必死になっている消防隊の人々。

何だこれは！

炎に包まれた家、あの中には家族が自分の帰りを待っているはずなのに。

気づいたら和哉は炎に包まれる家へと駆け出していた。

「君！ 待ちなさい！」

消防士の清楚芋振り切って業火の中へと飛び込む。

家の中はまさに灼熱の地獄だった。

『あなたの家族が今日、死ぬ』

耳によみがえるあの言葉、それを首を振って払い、家族の名を叫びながら家の中を進む。

「母さん！ 父さん！ 繭香^{まゆか}！ どこ、いるなら返事を！」

リビングへ続く扉を蹴破り中へ駆け込む。さっと首を巡らせて部屋の中を確認すれば目に入ってくるのは地面に壁にもたれ座り込む父の姿だった。

「父さん！」

和哉は父の体に駆け寄りその体をゆする。

「父さん、大丈夫？ すぐに外に連れてく、か……ら？」

和哉にゆすられていた父の体がゆっくりと倒れ、首が転がる。

「……え？」

何、これ。

転がる首は何か（・）にぶつかって止まる。

それにつられるようにゆっくりとその何かに目を向ける和哉。

「かあ、さん？」

それはただの肉塊と変わり果てた母の死体だった。

思わずその場に嘔吐する和哉。

中の良かった家族の惨たらしい死体を前に、和哉の心をゆっくりと暗い絶望が覆って行く。

「何だよ、何なんだよこれえ！」

涙を流し、声を枯らし叫ぶ。

「そうだ、繭香は！」

二人の死体と正反対の壁際に繭香はいた。……地面に横たわってその血の気の無い顔と周りに広がる鮮血から一目で既に命が無いと分かる。

「あ、あああああああ！」

誰だ！ 誰がやった！

絶望に吼え、狂気の涙を流し和哉は叫ぶ。

「誰だ！ 誰がやった！」

返事はない。周りからは家具の、家の燃える音がするばかりで。人の気配はまったく無かった。

父さん、母さん、繭香。

三人の死体を眺め、地面に座り込む和哉。

「みいつけた」
不意に耳元で声がした。

第四章（前書き）

なんだろう、上手くかけなかった

第四章

「……誰？」

力なく超えのした方へ顔を向ければ全く見覚えの無い人物がそこにいた。

「なんだ、まだ人いたんジャン」

180センチはあると思われる体型、端正な顔には軽薄そうな笑みが浮かんでいた。

「……誰だよ、お前」

「そつかそつか、この家の奴どれだけ痛めつけてもアレ（・・・）の在り処吐かなかったからな……調度いい、お前に訊くか」

男は和哉の言葉など耳に入らないかのように、一人で話を進める。

家の奴を痛めつけても？ 今、コイツはそういったか？

「お前が……」

「で、質問なんだが……オルゴールは何処だ？」

「お前がやったのか？」

「おとなしく答えれば痛い目を見ないで済むけど？」

和哉の目の前にしやがみ、顔を覗き込んでくる男を思い切り睨み付ける。

「お前が、お前がやったのか……！」

男の襟首を掴み、怒鳴りつける。そうして初めて男は初めて和哉に言葉を返した。

「おお！ この惨状の事か？ そりゃもちろん俺がやったさ」

どうだ？ 凄いだろ！ と胸を張る男に和哉は拳を固め殴りかかった。

和哉の拳が男の顔面にめり込む、その寸前のことだった。気がつけば和哉の体は壁に叩きつけられ、ていた。

なんだ？ 何が起こった？

「じゃあ、俺の質問に答えてもらおうか」

和哉は目の前の男を呆然と見上げる事しか出来なかった。

「オルゴールは何処だ」

「……オルゴール？」

「そう、オルゴールだ」

そんなものに心当たりは無い。それに答えてやる義理も無い。

「……」

黙秘する和哉に男はため息を零す。

次の瞬間には和哉は反対側の壁に叩きつけられていた。

コフ、と肺の中の空気が吐き出される。

さつきから何なんだコイツは！

「二回目だ、オルゴールは何処だ」

「そんなものしらな」

またもや反対側の壁に叩きつけられる。

「三回目だ、知らないとは言わせない。オルゴールは何処だ」

「し、しらな」

気付けばまた壁に叩きつけられていた。

男が質問し、和哉が壁に叩きつけられる。その繰り返しにもはや和哉には男の質問に答えるだけの力が無かった。

「あゝあ、これだけでも知らないと言い張るかあ」

苛立たしげに足元にある何かを蹴飛ばす男。

床に横たわる和哉の目の前にそのナニ力が転がってくる。

「……う、ああ、あああああ！」

転がって来たナニカ、それは父の頭だった。

「お？ まだ元気じゃん」

和哉の絶叫を聞き男は近づいてくる。

「じゃ、もっかい訊くけど、オルゴールはどこ？」

「……お前が、お前がぁ！」

叫び、怒鳴り、睨み付ける和哉にやれやれと肩を竦めまた和哉を壁に叩きつけようと一歩後ろに下がる。

不可視の衝撃はが和哉を襲う、その時だった。和哉の耳に、否、頭の中でオルゴールの音が鳴り響いた。

とても優しく、懐かしくそれでいてどこか哀しいその音色はあの時夢の中で聞いたソレだった。

気付けば和哉は壁に叩きつけられることは無く、男の背後に立っていた。

「……お前」

くるりと振り返り和哉を訝しげに観察する男だったが会心したように笑みを作った。

「……なんだぁ、あるじゃんか」

オルゴール

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9682z/>

愚者とオルゴール

2012年1月14日23時46分発行